

令和5年度



# 東明小だより



笑顔の学校

令和5年5月29日  
第3号

## 陶芸を通して子どもたちに伝えたいこと

校長 吉田 尚子

東明小学校の伝統的な活動の1つに「陶芸」があります。「志野の里」といわれるここ久々利の地において、「陶芸」を学ぶことは、子どもたちにとって、ふるさとを知る意味でも大変重要な役割を担っています。

思い返せば我が家にも、「陶芸」にまつわるこんな話あります。

今から15年以上前、すでに成人した娘が小学生の頃、夏休みに可児市が主催する「親子陶芸教室」に毎年参加するのが、娘と私の楽しみでした。目的は、夏に誕生日を迎えるお父さんへのプレゼントを作るためです。ある年は、その教室で作ったご飯茶碗を誕生日プレゼントにすることにしました。そしてそれから10年以上、毎日その茶碗で主人は食事をしていたのですが、ある時、茶碗が欠けていることに気が付きました。

どうしようか困っていた時、本校の陶芸教室でもご指導をいただいている磯谷さんと出会いました。磯谷さんに相談したところ、「お茶碗を持ってきて下さい。きれいに直りますよ。」という言葉に甘え、修復をお願いすることにしました。

数日後、かけた茶碗はきれいに元の姿に戻り、我が家に帰ってきました。そして、その茶碗と一緒に、「お父さんだけでなく、家族みんなで楽しく食事して下さい。」という磯谷さんのメッセージと、娘と私の分の新しい茶碗も添えられていました。現在は家を離れ、一緒には住んでいない娘ですが、今でも食事の時にその茶碗を見ながら、折に触れ娘の話をしています。

本校では、平成21年度から全学年で「志野の里」である地域の歴史や文化に触れ、その文化を直接体験しようと「陶芸」に挑戦しています。1年生の抹茶茶碗の絵付けから始まり、2年生のお皿、3年生の焼き物体験、4年生では志野焼の器、そして5、6年生ではたたらづくりと、学年の発達段階に応じて、伝統文化のすばらしさを体験しています。

そして、今年もいよいよ活動が始まります。「陶芸」を通して、「古都のすばらしさを残したい。」「子どもたちに伝統文化を伝えたい。」という献身的にご協力いただいている地域の皆様の思いを伝えると同時に、少しでもふるさとへの理解を深め、ふるさに愛着と誇りのもてる子どもたちに育ってほしいと思います。

そして、「物を作る」ということは、その中にいろいろな思いや願いがたくさん込められていることも、子どもたちに伝えていきたいのです。活動のある日は、各ご家庭でも一言、子どもたちに声をかけてあげて下さい。



5月 職員研修  
～陶芸体験～